

# ベトナム人の日本語学習者に対する 漢語の類推力を高める指導

専任講師 白石麻子

(1998.4.24 受)

## 要旨

ベトナム語は現在アルファベット表記であるが、中国語から来た語彙が豊富に含まれている。ベトナム人の日本語学習者が漢語の習得をより効果的に行うことができるよう、日本語の漢語の発音とベトナム語における中国語から来た言葉の発音の変化のルールを示し、発音からの類推力を高めるための指導を行った。

## キーワード

漢語, ハン・ヴィエト, 発音変化のルール, 類推力

## 1. 授業の目的

- 1-1. この授業を行った経緯
- 1-2. 日本語とベトナム語の語彙の重なり
- 1-3. 指導項目

## 2. 教材化のための準備

- 2-1. 共通語彙のカード化
- 2-2. 発音変化のルール表の作成

## 3. 授業開始前のアンケートおよびガイダンス

- 3-1. アンケートの内容とその結果
- 3-2. ガイダンスの内容
- 3-3. 類推力の測定

#### 4. 導入の授業

##### 4-1. 発音のよく似た語彙の提示

##### 4-2. 発音変化のルールへの提示と練習

#### 5. 授業のカリキュラムと教材

##### 5-1. 宿題のプリント

##### 5-2. 語彙の類推練習のプリント

##### 5-3. 定着のためのゲーム

#### 6. 学習者の類推力の伸び

##### 6-1. 類推力測定プリントの第2回実施結果

##### 6-2. 正規の漢字授業での学習者の様子

#### 7. 授業後のアンケートの結果と考察

##### 7-1. アンケートの内容とその結果

##### 7-2. 考察

#### 8. 今後の課題

#### 参考文献

#### 資料

### 1. 授業の目的

#### 1-1. この授業を行った経緯

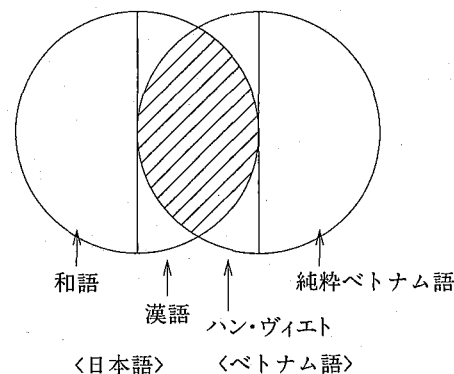
筆者は、1994年度に初めて日本政府（文部省）奨学金留学生に対する日本語の授業を担当したが、彼等のほとんどは非漢字圏の学習者であった。授業を進めていくうちに彼等の日本語学習における漢字教育の重要性を改めて認識した。それらの学習者の中に日本語の学習経験のないベトナム人学習者が2名いた。ベトナム人は非漢字圏学習者であるが、ベトナム語には中国語から来た語彙が数多くある。筆者は自らのベトナム語学習の経験から、ベトナム人学習者の漢語の習得をより効果的にするために何か特別な指導方法が可能なのではないかと考えた。

1994年度はこの2名の学習者に対し、ベトナム人のための漢字の補習授業を希望するかどうか聞いたところ、ぜひ受けたいとの返事があった。そこで同じグル

ープの授業を担当していた教師の了解を得て、1学期を中心に数回漢字の補習授業を行った。また、97年度も筆者が担当した学習者の中に日本語の学習経験のないベトナム人学習者が6名おり、そのうち希望した5名に対して放課後約10回の補習授業を行った。試行錯誤の中で全くの白紙から作成したために不十分な点の多かった94年度の教材に改良を加え、97年度はより系統的に授業を行った。本稿ではこの97年度の授業内容について述べる。

#### 1-2. 日本語とベトナム語の語彙の重なり

ここで、簡単に日本語とベトナム語の語彙の重なりについて説明したい。ベトナム語は現在アルファベット表記であるが、かつて中国の文化の影響を受けチュー・ノムという独自の漢字を用いていた時代もある。また今でもあちこちの寺の門には漢字が書かれているのを見ることができる。このことをみてもわかるように、ベトナム語は、日本語や韓国語と同じように、中国語から来た語彙を豊富に持つ言語なので、当然日本語の語彙とベトナム語の語彙には重なりがある。例えば、日本語の「恋愛」は、ベトナム語で「*luôn ái*」（ルイエン・アーイ）であり、「発展」は「*phát triển*」（ファットウ・チエーン）である。全てがこのように発音が似ているわけではないが、これら重なりのある語彙を効率よく覚えることができれば、漢字の習得のみならず、漢語が増えてくる中級以降の日本語学習にも大いに役立つのではないと思われる。日本語で漢語に当たるものは、ベトナム語では、ハン・ヴィエト（*Hán-Việt*, 漢越語）と呼ばれている。日本語の語彙とベトナム語の語彙の重なりを簡単に図示すると、次のようになる。



ここでは簡略化するために外来語は省いた。斜線で示した部分がベトナム語の中のハン・ヴィエトと日本語の中の漢語で重なりがある部分である。この重なる部分についての指導を行うのが今回の試みである。しかし、1つ注意を要することがある。この部分の語彙についてはその多くが日本語でもベトナム語でも同じ意味を持っているが、中には意味が異なる語彙もいくつかある。例えば、日本語の「家族」に当たるハン・ヴィエトは「gia tộc(ザー・トック)」であり、同じ漢字から来た語彙である。日本語で「家族」と言えば親子兄弟など一緒に住んでいる者たちをさすが、ベトナム語ではそうではない。ベトナム語では「gia tộc」は「一族、親族」に当たる。今回のような授業を行う場合、これらの言葉を意味が同じものとして提示することのないよう特に注意して、教材を作成した。

### 1-3. 指導項目

前述のように、日本語とベトナム語には中国語から来た語彙がたくさんあるにもかかわらず、今までのところベトナム人の日本語学習者がそれらの語彙を効率よく覚える方法は考えられてこなかったようである。漢字そのものに限ってみれば、ド・トン・ミン氏のベトナム人のための「常用漢字表」というすばらしい一覧表がある。この一覧表は一つ一つの漢字がハン・ヴィエトと対照されているだけでなく、その漢字の意味が純粋ベトナム語で書かれている非常に便利なものである。しかし、語彙レベルの学習となるとその一覧表ではできない。では、ベトナム人の日本語学習者が日本語とベトナム語の共通部分の語彙を効率よく覚えていくにはどのような方法が可能であろうか。そこで発音に注目してみると、日本語の漢字の音読みの発音とハン・ヴィエトの発音との間にはかなりはっきりした変化のルールがあることがわかる。筆者自身がハン・ヴィエトについて学んだ時、漢字の音読みの発音との変化に注目して覚えるという方法で指導を受けたが、この2者の発音の変化にルールがあるのは、ハン・ヴィエトについてある程度専門的に学んだことがある者は知っていることである。ベトナム人の日本語学習者に対しても、このことを応用して教材を作ることが可能であろうと考えた。この際学習者が、専(セン)=chuyên(チュイエン)、家(カ)=gia(ザー)のように一つ一つの漢字の音読みとハン・ヴィエトを覚えていくことも大切だが、それだけでは機械的で単調である。それに、せっかく覚えても日本語の文章の中では漢字

1字の場合は訓読みで読まれることが多く、単独で音読みで読まれることはまれである。これに対し、熟語になればほとんどの場合音読みである。したがって、一つ一つの漢字とハン・ヴィエトを機械的に覚えるのと平行して、文章の中で熟語として現れた時にすぐ意味がわかるような力をつければいいのではないかと考えた。そしてこのような力をつけるために、語彙レベルでの類推力をつける教材を考えていくことにした。

そのために、まず学習者に発音の変化のルールを示し、その後漢語とハン・ヴィエトとの類推力をつけるための練習を用意することにした。練習を重ねていくうちに、初めて出会った漢語でもその発音からハン・ヴィエトのどの語彙に当たるかが類推できるようになっていこう、あるいは類推までは十分にできなくとも1度学んだ語彙が定着しやすくなるであろうと考え、今回は、①日本語とベトナム語の共通語彙についての認識を深めること、②日本語の漢語を見てその発音からベトナム語の意味が類推できるようになること、の2つを目標とした教材を作成することにした。

## 2. 教材化のための準備

学習者に指導するためには、まず教える側の基礎資料を充実させる必要があったので、次のような作業を行った。

### 2-1. 共通語彙のカード化

94年度は、指導内容のアイデアを思いついてから実際に授業をするまでの準備期間がほとんどなかったため、筆者が覚えている範囲内の共通語彙を学習者に指導するとどまったが、より教材を充実させるため、その後約1年かけて、常用漢字の範囲で日本語とベトナム語の共通語彙を洗い出すためのカード化の作業を行った。

具体的には、常用漢字1つにつきカードを1枚用意し、その漢字を用いた共通語彙を辞書で拾い出していった。この作業のためには、「越日越合本辞典」(1990)およびベトナム語の国語辞典にあたる「TỪ ĐIỂN TIẾNG VIỆT」(1994)を用いた。さらに、1-2で述べた「gia tộc」と「家族」のように微妙に意味の異なる語彙を確実に把握し、同時にやや古くさくなっているハン・ヴィエトを除く

ため、ネイティブによるチェックも受けた。このようにして、資料1のようなカードを作り基礎資料とした。

## 2-2. 発音変化のルール表の作成

筆者自身がベトナム語を学習した時にも発音の変化のルールについて学んだが、改めて発音の変化のルールについて調べていくことにした。具体的には前述のカードに現れた共通語彙について1つずつチェックしていく方法をとった。ルールは非常にたくさんあり、どの程度まで学習者に示すべきか迷ったが、例外的なものは省くこととし、類推力をつけるために必要だと思われる主要なルールのみを提示することにした(資料2の表1, 表2参照)。このルールは主要なものだけなので全ての場合に当てはまるとは限らないが、これをひととおり覚えれば漢語とハン・ヴィエトの7, 8割は類推できるようになるだろう。

ここで、具体的にどのようにこのルールを用いるのか、簡単な例をひとつ示したい。まず「liên lạc」というハン・ヴィエトを見てみよう。これは日本語では「連絡する」という意味である。表1を見るとわかるようにベトナム語の「l」は、日本語でも「l」である。また表2を見ると、「iên」は「en」か「in」に変化し、「ach」は「aku」となる。これらを組み合わせると「レンラク」または「リンラク」と読むことができる。この例は非常に単純なものであり、もっと複雑な組み合わせになってしまう場合もある。また、いくつか考えられる読み方のうちどれが正しいかは辞書などで確認する必要がある。一つ一つ順を追って書くと非常にめんどくさいもののように思われるかもしれないが、実際には主なルールを一応頭に置いてたくさんの語に当たっていくうちに、一つ一つ表を見ながら考えるよりもずっと早くだいたい見当がつくようになる。ここではハン・ヴィエトから漢語の読み方に変える例を示したが、このことに慣れていくと反対の作業すなわち漢語からハン・ヴィエトへの変換もできるようになっていく。

勘のいい学習者の場合には、教師がルールを提示しなくても学習を進めていくうちに、自分である程度ルールを発見できるかもしれない。しかし、筆者が直接指導した学習者ではないが、1年間日本語を学習したにもかかわらず漢語とハン・ヴィエトの共通性に気づかないで終った学習者もいると聞いている。このような学習者も多いと思われるので、やはり発音の変化についてはある程度ルール

として示し、練習を重ねていくといいのではないかと考えた。

具体的な教材を作る際には先ほど「liên lạc」の例で見たように、言葉を見て発音変化のいろいろな組み合わせを考えどれがいいか辞書で確認するというような非能率な方法はやめ、正しい漢語の読み方とハン・ヴィエト両方を始めからプリントにバラバラに書いておき、どれとどれが結びつくかをクイズ的に類推して当てるという形式を取ることにした。

## 3. 授業開始前のアンケートおよびガイダンス

実際の授業を開始する前の5月29日に、5名の学習者全員に対して①アンケート、②ガイダンス、③この段階での類推力の測定、の3つを約30分間で行った。

### 3-1. アンケートの内容とその結果

アンケートでは、学習者がハン・ヴィエトの存在を知っているかどうか、また知っているならば、すべてアルファベット表記のベトナム語の中でどのようにしてハン・ヴィエトであることを判断しているのかを知りたいと思った。5月末の段階ではまだ日本語での質問は不可能なため、アンケートはすべてベトナム語で行った。質問の内容と結果は以下の通りであった。( )内は人数を表す。

質問1. ベトナムで昔、漢字が使われていたことを知っていますか。

a. はい (5)      b. いいえ (0)

質問2. ベトナム語の中に、中国語から来た言葉がたくさんあることを知っていますか。例えば?

a. はい (5)      b. いいえ (0)

\*全員が知っていると言ったが、例は3名だけが次のようなものを計10個挙げた。

thủ đô (首都), chính trị (政治), tư tưởng (思想) など日本語の漢語と同じもの

thủy triều (水潮—日本語では「潮流」), kinh đô (京都—日本語では「首都」) など日本語とは違うもの

質問3. 日本語の中に、中国語から来たことばがたくさんあることを知っていますか。例えば?

- a. はい (4)      b. いいえ (1)

\* 「はい」と答えた学習者が多かったが、例として挙げたのは「食堂」と「化粧品」の2つだった。

質問4. ハン・ヴィエトと漢語の言葉の発音の間に、変化のルールがあることを知っていますか。例えば？

- a. はい (3)      b. いいえ (2)

\* 「はい」と答えた3名に具体的な変化のルールについて質問したところ、3名とも実は具体的には何も知っておらず、ただ何となく類推できるのではないかと考えていることがわかった。

質問5. あなたの知っている日本語で、ベトナム語と発音が似ていると思う言葉はありますか。例えば？

- a. はい (1)      b. いいえ (4)

\* この1名が例として挙げたものは、  
木 (もく) - mốp (モック) であった。

質問6. ハン・ヴィエトについて今までに勉強したことがありますか。ある人はどこで？

- a. はい (5)      b. いいえ (0)

\* 全員、小学校でほんのわずかなだけ学んだと答えた。

質問7. ハン・ヴィエトと純粋ベトナム語を区別できますか。

- a. はい (2)  
b. ほんの少しだけ (1)  
c. いいえ (2)

質問8. 上の質問で「はい」と答えた人は、どうやって区別するのか教えてください。

\* 「はい」と答えた2名の答えは以下の通り。

—ハン・ヴィエトの方が同じような意味を表す純粋ベトナム語より意味範囲が広い。ハン・ヴィエトは普通2つの音で一つの言葉を作っている。(この学習者の答えは、筆者は、必ずしも正しいとは思わない。)

—自分の国の言葉なので、ハン・ヴィエトならばすぐわかるが、どうやって区別しているのか自分でも説明できない。

このアンケートから、学習者たちは小学校でハン・ヴィエトについてごく簡単に説明を受けていることがわかったが、系統的な知識は得ておらず、純粋ベトナム語とハン・ヴィエトをはっきり区別する手段も特に持っていないことがはっきりした。また、このアンケートを実施した段階では、すでにメインテキストである『文化初級日本語Ⅰ』で「銀行」「会話」「音楽」「電話」「病院」などの言葉を学習しており、これらはハン・ヴィエトにも同じ言葉があるにもかかわらず、学習者にそのようなものとして意識されていないことも明らかになった。このアンケートの結果からも、補習授業を行う意味は大きいのではないかと考えられた。

### 3-2. ガイダンスの内容

ガイダンスはベトナム語で説明したプリントを渡して行った(資料3)。その主な内容は次の通りである。

—ベトナム語のハン・ヴィエトと日本語の漢語に共通の語彙がたくさんあること。  
—これら2者の発音の変化のルールを身につけることによって、ハン・ヴィエトから漢語を、またその反対を類推できるようになること。

—漢字の「音読み」と「訓読み」について。

—ベトナム語と日本語の語彙の重なりについて。

—特に注意すべき場合(「家族」のような語)があること。

—漢語は話し言葉で使われるものもあるが、書き言葉の中で使われる場合がとて多い。したがって、ベトナム語で表現する時ハン・ヴィエトで表現するからといって、日本語で話す時むやみに漢語を使って話さないほうがいいこと。例えば「私もそれがいいと思います」と言いたい時、ベトナム語では「同意する」というハン・ヴィエトを使って、「Tôi đồng ý anh」と言うが、日本語では普通の会話では「同意する」はかたい言葉なので使わないほうがいい。

### 3-3. 類推力の測定

まだ何も指導していない段階で、学習者が漢語の発音とハン・ヴィエトの発音を比べて類推する力を持っているかどうかを調べるために、資料4のようなプリントを作り学習者にやってもらった。学習者には「これはテストではなく、今の

段階でみなさんにどれくらい類推力があるかを知るためのもの」と説明して行った。

問題は全部で30題あり、10題ずつのグループに分かれている。□の中にはハン・ヴィエトが書いてあり、その外側に漢語が書いてあるが、漢語には全てふりがながふってあるので、学習者は漢語の意味はわからなくても読み方だけはわかる。両者の発音の変化のルールをある程度知っていれば解ける問題ばかりである。しかし、ある学習者は見てすぐにあきらめ、またある学習者は10分程真剣に類推しようと試みていたが、結局全員白紙で提出した。このことから、5月末のこの段階では学習者全員に類推力がゼロであることがわかった。

このプリントは、この後補習授業を5回行った後、再び実施した。その時の結果は6-1で詳述する。

#### 4. 導入の授業

このアンケートおよびガイダンスの後、6月5日から約10回にわたる補習授業を開始した。1回30分から40分程度である。

本校では、非漢字圏の初級の学習者に対して、『BASIC KANJI BOOK I・II』を使用して漢字の授業を行っている。このテキストになるべく沿う形で、また、なるべく学習者の負担を軽くするような補習授業を行うにはどのような方法が望ましいかを考えた結果、『BASIC KANJI BOOK』で提出される漢字の順にそれに相当するハン・ヴィエトを教え、語彙を広げていくという方針を取ることにした。ただし、第1回目は導入ということもあり、これからの学習に興味と関心をもたせるため他のものも取り入れた。詳しい内容は以下の通りである。

##### 4-1. 発音のよく似た語彙の提示

まず、ハン・ヴィエトと比較的発音が似ていてわかりやすい漢語だけを集めたプリントを作り、学習者に両者の発音に類似性があることを知ってもらうことにした。使用したプリントには次のような語彙をのせた。例えば、chú ý (チュー・イー)=注意する, suy lý (スイ・リー)=推理する, chuyên môn (チュエン・モン)=専門などであり、これらは初めての人でも聞いただけで何となく「似ている」と感じられるはずである。これらの語彙をプリントに沿っていっしょに発音

していった。このプリントをやった後の学習者の反応は、筆者が予想していた以上に「発音がこんなにも似ている言葉があるのか」という驚きでいっぱい様子であった。

##### 4-2. 発音変化のルールの提示と練習

このプリントで似た発音の語彙を見た後、一般的な発音の変化のルールについて、前述の発音変化表(資料2)を渡しその使い方を説明した。ルールは表で見ると非常にたくさんあるように感じられるため、学習者が学習意欲を失うといけないと思ったので、1度に覚える必要はないこと、これから少しずつ練習していくので心配する必要はないことなどを話しリラックスさせた。

発音変化表を渡した後、具体的な練習にはいった。この練習のためにはまず、ベトナム語の子音のカードを用意した。これには緑色のカードを使った。また、白いカードで母音のカードを用意した(資料5参照)。この2つのカードを組み合わせ、表を見ながら日本語ではどのように発音が変わるかの練習を行った。

この練習はゲーム的要素もあり、学習者は一覧表を見ながら、練習に夢中になった。初めのうちは筆者がいろいろな組み合わせを作り、学習者が考えて答えていたが、やがて自分たち同士でいろいろな組み合わせを作って問題を出し合い始めた。このカードは学習者が自主的に家へ持って帰り、自分たちでその後しばらく練習したそうである。この日の授業はここまでであったが、この日に初めて『BASIC KANJI BOOK』の進度に沿った宿題を少し出した。これについては、5-1で述べる。

#### 5. 授業のカリキュラムと教材

6月19日からいよいよ本格的な練習を開始した。この時期の学習者の日本語力は、『文化初級日本語I』の第15課程度、また『BASIC KANJI BOOK』の進度は第12課であった。

授業は毎回、①『BASIC KANJI BOOK』で既習の漢字一つ一つがどのハン・ヴィエトにあたるかを示したプリントA(宿題)の答えあわせ、②宿題にした漢字を含んだ漢語とハン・ヴィエトの類推(プリントB)③定着のためのゲーム的な練習、の3つを中心に組み立てた。

この形での授業は、夏休み前5回行った。夏休み明けからは学習者に類推力がかなりついてきたため、ゲームは省略し、①と②のプリントのみ行った。夏休みの後も5回授業を行い、『BASIC KANJI BOOK』に出てくる漢字全てを用いた語彙の類推練習を終えた。以下、それぞれの教材について述べる。

#### 5-1. 宿題のプリント

プリントA(前述の①)は、毎回前の授業の終りに宿題として渡したものである(資料6参照)。このプリントの漢字は『BASIC KANJI BOOK』で全て既習の漢字である。プリントではそれぞれの漢字がハン・ヴィエトのどれに当たるかを示した。学習者は( )内に漢字の音読みを書いてくるのが宿題である。毎回、『BASIC KANJI BOOK』の3課分から4課分ぐらいの量の漢字をまとめて宿題とした。回によって異なるが毎回50字前後の漢字とハン・ヴィエトを提示したことになる。学習者にはこの宿題をすることによって、発音に注意しながら漢字とハン・ヴィエトを結びつけてなるべく覚えてくるよう指示した。

#### 5-2. 語彙の類推練習のプリント

授業の中心になったのは、プリントB(前述の②、資料6参照)による類推の練習である。□の中にはハン・ヴィエトが書かれており、外側に漢語の語彙が書かれている。学習者は発音変化表を見ながら類推し、( )の中にハン・ヴィエトを書いていく。プリントにのせた漢語の数は回によって異なるが、始めのうちは50個ぐらいからはじめ、最終的には150個ぐらいまで増やした。これらの語彙は初級の学習者に教えるには難しすぎると思われるかもしれないが、学習者は意味は母国語で全てわかっているのだから、これらの語彙を提示することにはなんら無理はなかった。始めのうちは、筆者がそばにいて手助けしたり、学習者自身が変化表を取り出して見比べながら類推していたので時間もかかっていたが、回を重ねるごとに発音変化表を見ずに類推できるようになり、スピードもつき、類推も正確になっていった。

#### 5-3. 定着のためのゲーム

このプリントBを用いて類推して理解した語彙を定着させるため、カードを作りゲームのようにしてお互いに練習をさせることにした。カードは資料7のように、2種類作った。1つは1枚につき漢語の語彙を一つずつ書いた緑のカード、

もう1つは1枚につきハン・ヴィエトの語彙を一つ書いた白のカードである。これを机の上にバラバラにして撒き、正しく組み合わせていくものである。単純なゲームであったが、楽しみながらやっている様子であった。また、回が進むにつれ、学習者自身が自由に練習の形式を自由に考えてペア練習するようになった。このカードは大変好評で、学習者たちは毎回家に持っていき練習した。

### 6. 学習者の類推力の伸び

以上のような方法で補習授業を行った結果、授業開始前ゼロだった類推力がどれぐらい伸びたかについて述べる。類推力測定のためには授業開始前に用いた資料4のプリントを再び用いた。測定した時期は夏休み前で第5回の授業が終った時点、本格的な類推練習を始めてから4回目が終わった時期である。このプリントには30の漢語があり60の漢字が使われているが、そのうちこの時点までに学習者が『BASIC KANJI BOOK』の正規の授業で学んだ漢字は17文字含まれている。あとの43文字は未習の漢字である。また、これら30の熟語のうち、『BASIC KANJI BOOK』の中ですでに学んでいたものは「政治、社会、行動、活動」の4つのみである。したがってこのプリントを用いて測定することは、この時点でも妥当であると判断した。

#### 6-1. 類推力測定プリントの第2回実施結果

このプリントを渡したところ5名の学習者は速い者は5分程度で問題を解き、1番遅い者でも10分以内で問題を解いた。各学習者の誤答の数と誤って答えた漢語は次のようであった。

学習者A(0)

学習者B(4/解決、戦争、首相、関心)

学習者C(4/危険、犠牲、経験、関心)

学習者D(4/統一、美術、首相、義務)

学習者E(6/政治、企業、首相、営業、行動、活動)

まだ本格的な類推の練習は4回しかしておらず、未習の漢字の方が圧倒的に多かったにもかかわらず、学習者Aは100%、学習者B、C、Dは87%、学習者Eは80%の語彙を正しく類推できたことになる。筆者は学習者が50%ぐらいは類推できる

だろうと思っていたが、この結果は予想を上回るすばらしい結果だった。

## 6-2. 正規の漢字授業での学習者の様子

筆者は『BASIC KANJI BOOK』を用いた正規の漢字授業も受け持っていたが、その授業の中でのベトナム人学習者の様子を感じたままに少し述べてみたい。正規の授業では様々な国から来た非漢字圏学習者が一緒に授業を受ける。始めのうちはベトナム人学習者の他の学習者との違いは何も感じられなかったが、やがて、5名の学習者がハン・ヴィエトと重なる漢語の存在に非常に興味を持ち、漢字学習に対して前向きに取り組んでいる様子がうかがえるようになった。日本語学習の経験のない非漢字圏学習者にとって次々と出てくる漢字の学習が好きになれるかどうか、覚えることを大きい負担と思わずに頑張れるかどうかは、日本語学習が成功するかどうかの1つの鍵である。他の様々な国の非漢字圏学習者の中にも漢字に非常に興味を持ち、おもしろさがわかってどんどん語彙を広げていく者がたくさんいたが、ベトナムの5名も漢字のおもしろさがわかっていったようである。また、次のようなことも授業中観察された。『BASIC KANJI BOOK』では新しい漢語に英訳がついている。5名のうち3名は英語がかなりわかり、英訳が役に立っているようだったが、あとの2名は英語はほとんどわからず漢語の英訳はあまり意味をなさなかった。しかし、補習授業で類推力がつくにつれ、テキストに出てくる漢語を見て類推し、ベトナム語でメモをしていることが多くなっていった。英語がわかる3名についても同様に、より早く母国語での理解ができるようになった様子が観察された。

## 7. 授業後のアンケートの結果と考察

補習授業は11月で終了したが、その後卒業間近の2月に5名の学習者に対して、今回の授業全般についてのアンケートを行った。

### 7-1. アンケートの内容とその結果

アンケートの内容と結果は以下の通りである。

質問1. 漢字の勉強はおもしろいですか。

- a. はい (5)      b. いいえ (0)

どうしてですか。

—漢字は意味を持っているので、漢字を覚えると新しい言葉が覚えやすくなるから。

—ベトナム語にはハン・ヴィエトがあるので、ベトナム人にとって漢字は覚えやすいから。

—ハン・ヴィエトを勉強すると、漢語の意味がすぐわかるから。

—ベトナム語の言葉と似ている言葉が多いから。

質問2. この補習授業を受けたことについてどう思いますか。

- a. とても役に立った (5)  
b. 少し役に立った (0)  
c. あまり役に立たなかった (0)

質問3. 漢語とハン・ヴィエトの類推力がついたと思いますか。

- a. とてもついた (3)  
b. まあまあついた (2)  
c. あまりつかなかった (0)

質問4. 補習授業で使ったいろいろな教材についてどう思いますか。自由に書いてください。

- a. 発音変化表……………とても役に立った  
b. 発音変化練習用カード……おもしろくて覚えやすい  
c. クイズ用カード……………おもしろかった／とても覚えやすい  
d. プリントA, B……………いろいろな言葉があるので練習するとい  
い勉強になる／便利でおもしろい

質問5. 『BASIC KANJI BOOK』に沿って補習授業をしたことについてどう思いますか。

—出てくる漢字の順が同じなので覚えやすい。

—いい方法だ。

—正規の授業で勉強した漢字の語彙をさらに広められるのでいい。覚えやすい。

質問6. 補習授業のプリントA, Bに出てきた言葉は適当ですか。

- a. 適当だ (4)



- b. 難しすぎる (0)
- c. 古い言葉がある (1)

質問7. 補習授業の回数はどうですか。

- a. ちょうどいい (4)
- b. もっと多い方がいい (1)
- c. もっと少ない方がいい (0)

質問8. 今回の授業を改善するとしたらどうすればいいですか。

—たくさん練習したいので、もっとたくさんプリントを作してほしい。

## 7-2. 考 察

このこのアンケートの質問の1から3までは、漢字学習やこの補習授業に対する学習者の自己評価である。この結果を見てみると、学習者は全員漢字の勉強がおもしろいと感じており、今回の補習授業の内容もほぼ肯定的にとらえていることがわかる。そして自分たちの類推力についてもかなり自信を持てるようになった様子がわかる。特に質問1の漢字の勉強が好きな理由として、学習者が母国語との共通性や、共通性があることのメリットを挙げたことは、今回の授業の目標の「①日本語とベトナム語の共通語彙についての認識を深めること」が達成できたと考えてよいだろう。また目標の「②日本語の漢語を見てその発音からベトナム語の意味が類推できるようになること」についても、類推力が「とてもついた(3名)」「まあまあついた(2名)」という回答や類推力測定の第2回の結果から見れば達成できたといえる。ただし、今回の授業では漢語とハン・ヴィエト両方を示して類推するという形式をとったので、ある文章を読んでその中の漢語がハン・ヴィエトの何に当たるのかを自分の力で的確に類推できるようになったかどうかは、確かめることはできなかった。しかし、始めにたてた目標は達成できたと考えられるので、あとは学習者自身が自分の力で語彙を広げ、定着させていくしかないであろう。

次に質問の4以降は授業の具体的な進め方についての回答であるが、漢字のメインテキストである『BASIC KANJI BOOK』に沿って漢字や熟語を提出していったことを全員がいい方法だと評価した。補習授業であるという性質上、学習者になるべく負担の少ない方法で効率よく進めたいと考え、このようなシラバス

をたてたのは適当だった。また、様々な教材については学習者の学習スタイルにも関わるし好みの問題もあるようだが、ゲーム的な要素を持つものは全員から好評であった。プリントA、Bについても、肯定的な評価が得られた。筆者としてもなるべく単調な練習にならないようにと考えたプリントではあったが、いつも形式が同じなのであるいは学習者が飽きてしまうのではないかと危惧していた。ところが、アンケートの結果は「いろいろな言葉があるのでいい練習になる」「便利でおもしろい」などとなっており、学習者の姿勢が真面目で前向きであったせいであろうが、予想以上に楽しんでいただようである。もっとたくさん練習をしたいという声もあり、熱心さがうかがえた。同じような形式の練習であっても、語彙が広がり類推力がついていくのが自分でも実感できるので楽しかったのだろう。

## 8. 今後の課題

以上、1997年度の授業内容について述べてきたが、1回30～40分、約10回の補習授業という形で行ったものとしては、かなり内容が濃かったと思う。特定の国の学習を対象とした授業なので指導の時間が限られるし、そのためにさける教師側のエネルギーにも限りがある。したがって、このぐらいが限度ではないかという気がするが、もし再びこのような指導をする機会があるなら、いくつかの改善点が考えられる。

まずはじめに教材にゲーム的な要素のものを増やしていくことである。今回は筆者自身時間的余裕が十分なかったこともあり、カードによる練習は途中で作成するのをやめたが、学習者たちに手分けしてカードを作ってもらい、互いに交換しあって練習していく方法も考えられる。

次に、今回は基礎資料が完全に準備できなかったため行わなかったが、「gia tộc」と「家族」のように同じ漢字から来ている意味が異なっている語彙をまとめて提示できればもっとよかったと思う。このような似て非なる語彙を知っておくことは、学習者にとって大変メリットがあるだろう。さらに、ハン・ヴィエトと漢語では字の順が逆の語彙もいくつかある。例えば、「giới thiệu (紹介)」は「紹介する」という意味である。その他、ハン・ヴィエトと漢語では、品詞が異なる

ものもある。一方では名詞としてのみ使われているものが、もう一方では名詞・動詞の両方に用いられるなどの場合である。

これらの指導は、類推力をつけるという目標を越えて語彙の指導にまで入り込んでしまうが、いずれにせよ、これらについての指導を行うためには、基礎資料をさらに充実させていく必要がある。

最後になったが、共通語彙のカード化の作業に協力してくださった門池恵子氏、ネイティブ・チェックを快く引き受けてくださったレー・ホアン・タイン氏に心から感謝する。

#### 参考文献

- (1) ド・ド・ミン「常用漢字表」1990年、メコン・センター
- (2) 竹内興之助「越日日越合本辞典」1990年、大学書林
- (3) Hoàng Phê, *TỪ ĐIỂN TIẾNG VIỆT*, NHÀ XUẤT BẢN GIÁO DỤC, 1994

#### 資料1 基礎資料……共通語彙のカード側

theme <i>cao</i> (高)			高 (cao) [=d' (い)] [=d' (ま)] (め)
<i>cao đẳng</i>		高等な	
<i>cao áp</i>		高圧な	
<i>cao cấp</i>		高級な	
X <del><i>cao danh</i></del>		<del>高名な</del>	
<i>cao nguyên</i>		高原	
<i>cao quý</i>		高貴な	
<i>cao thượng</i>		高尚な	
<i>tối cao</i>		最高な	
⑤ ( <i>cao khiết</i> )		高潔な	
			* <i>cao niên</i> 高年 <高 年>
			124

\* φ は、音がなくなることを示す

QUI TẮC BIẾN HÓA CHỦ YẾU CỦA PHÁT ÂM  
TỪ TIẾNG VIỆT RA TIẾNG NHẬT

(表 1)

ベトナム語      日本語  
↓                    ↓

TIẾNG VIỆT	TIẾNG NHẬT	TIẾNG VIỆT	TIẾNG NHẬT
B	B. H	C	K
CH	S. SY	D	Y, $\phi$
Đ	T. D	G I	K
H	K. G. $\phi$	K	K. G
KH	K	L	L
M	B. M	N	N
NG	G	NH	N, Z
PH	B. H	Q	K
S	S	T	S. Z
TH	S. T. Z	TR	S. T. Z
V	B. M. $\phi$	X	K. S

(表 2)

TIẾNG VIỆT	TIẾNG NHẬT	TIẾNG VIỆT	TIẾNG NHẬT
a	a	a c	a k u
a c h	a k u, y a k u	a i	a i
a m	a n	a n	a n

(表2つづき)

ang	ō	anh	ē, ȳ
ao	ō	ap	ō, atsu
at	atsu	ăc	oku
ăng	ō, yō	âm	in
ân	in, un, on	âp	yū
ât	itsu	âu	ō
ê	ai, ē	ênh	ē, yō
êt	etsu	êu	yō
i, y, ia	i	ich	eki, yaku
iêm	en	iên	en, in
iêt	etsu	iêp	etsu, yō
iêu	ō, yō	inh	ē, yō
oa	a	oai	ai
oach	aku	oan	an
oang	ō	ong	ō, ū
ô	o, ū	ôc	oku
ôï	ai	ôn	on
ông	ū, ō	ôt	otsu
ơ	i, yo	ơi	ai, i
u	u, ū, yū	uân	un, on, yun
uc	iku, uku, oku	ung	yū, yō
uy	i, ui	uyên	en
uyêt	etsu	ư	i, yo, yō
ưc	iki, oku, yoku	ưóc	yaku
ướng	ō, yō	ưu	yū

◆ VÊ HÁN VIỆT ◆

Như các anh(chị) đã biết, tiếng Việt và tiếng Nhật bắt nguồn từ tiếng Trung Quốc. Vì thế, phát âm của từ ngữ từ Hán tự ở tiếng Việt và tiếng Nhật có nhiều sự giống nhau.

Thí dụ: phát triển: はってん (発展)  
 luyện ái: れんあい (恋愛)  
 trung tâm: ちゅうしん (中心)

Từ nay, chúng ta hãy học những quy tắc biến hóa của phát âm giữa tiếng Việt và tiếng Nhật. Nếu các anh thuộc lòng các quy tắc đó thì chắc chắn các anh có thể rất dễ suy lý được cách phát âm và ý nghĩa của tiếng Nhật.

Lúc ban đầu, các anh không cần viết mọi hán tự. Một sự quan trọng là các anh cố gắng thuộc lòng cách đọc 音読み (cách đọc hán tự từ tiếng Trung Quốc) và 訓読み (cách đọc hán tự riêng tiếng Nhật). Đặc biệt bằng 訓読み, các anh có thể biết được ý nghĩa của hán tự vừa tra từ điển.

Thí dụ: minh...明くメイ、ミョウ>、あか(るい)

↑	↑	↑
tiếng Việt	音読み おんよみ	訓読み くんよみ
↑		
từ nay thường không thể biết được ý nghĩa mặc dù từ điển	từ nay thường không thể biết được ý nghĩa mặc dù từ điển	Nếu các anh tra từ điển thì các anh có thể biết được ý nghĩa của hán tự này. "sang"

Vì thế, tôi hy vọng các anh học Hán tự vừa tra từ điển bằng 訓読み để biết ý nghĩa của Hán tự đó. Mà 音読み cũng quan trọng vì (音読み + 音読み) làm từ ngữ từ Hán tự giống nhau giữa tiếng Việt và tiếng Nhật.

Ở đây, có một điều chúng ta phải chú ý. Quan hệ của từ ngữ từ Hán tự giữa tiếng Việt và tiếng Nhật là như sau:

Như các anh đã xem ở biểu đồ trên. có mấy từ ngữ từ Hán tự có ý nghĩa khác nhau giữa tiếng Việt, và tiếng Nhật.

Thú dụ: 非常 (phi thường) có ý nghĩa là "không phải thường" bằng tiếng Việt, nhưng có ý nghĩa là "tình trạng khẩn cấp" bằng tiếng Nhật.  
家族 (gia tộc) có ý nghĩa là "họ hàng" bằng tiếng Việt, nhưng có ý nghĩa là "các người gia đình" bằng tiếng Nhật.

Ya lai, có một điều các anh phải lưu ý. Trong từ ngữ hán tự của tiếng Nhật có nhiều từ ngữ mà được dùng chỉ khi chúng từ gốc hay viết văn chuẩn. Thí dụ: khi các anh muốn nói "Tôi đồng ý, anh..." bằng tiếng Nhật, hãy chú ý dùng nói 「私も同意します」。Ở đây, 「同意する」 nghĩa là "đồng ý", những người Nhật thường dùng từ ngữ này chỉ khi viết văn chuẩn. Thay cho nói 「私も同意します」 người Nhật thường nói 「私もそれがいいと思います」 và không dùng từ ngữ hán tự

Như này, các anh phải lưu ý đến thành ngữ tiếng Nhật khi nói, nhưng tôi nghĩ nếu các anh biết nhiều từ ngữ Hán tự tiếng Nhật thì các anh có nhiều lợi ích khi đọc báo hay là quyển sách chuyên môn. Khi các anh đang học tiếng Nhật cơ sở có lẽ không có nhiều dịp để dùng từ ngữ Hán tự, nhưng khi các anh lên học tiếng Nhật cao hơn, trí thức về Ban-Việt giúp các anh nhiều.



Basic L. 28-33-②

1 hãy viết 音読み của các chữ Hán.

- |                    |                    |
|--------------------|--------------------|
| 1. 良 ( ) - lương   | 16. 接 ( ) - tiếp   |
| 2. 惡 ( ) - ác      | 17. 說 ( ) - thuyết |
| 3. 点 ( ) - điểm    | 18. 果 ( ) - quả    |
| 4. 正 ( ) - chính   | 19. 合 ( ) - hợp    |
| 5. 達 ( ) - vi      | 20. 格 ( ) - cách   |
| 6. 同 ( ) - đồng    | 21. 度 ( ) - độ     |
| 7. 適 ( ) - thích   | 22. 落 ( ) - lạc    |
| 8. 当 ( ) - đương   | 23. 殘 ( ) - tàn    |
| 9. 難 ( ) - nan     | 24. 念 ( ) - niệm   |
| 10. 次 ( ) - thứ    | 25. 指 ( ) - chỉ    |
| 11. 形 ( ) - hình   | 26. 折 ( ) - triết  |
| 12. 味 ( ) - vị     | 27. 投 ( ) - đầu    |
| 13. 試 ( ) - thí    | 28. 打 ( ) - đả     |
| 14. 驗 ( ) - nghiệm | 29. 深 ( ) - thâm   |
| 15. 面 ( ) - diện   | 30. 沅 ( ) - tuyền  |

- |                   |                   |
|-------------------|-------------------|
| 31. 流 ( ) - lưu   | 46. 發 ( ) - phát  |
| 32. 消 ( ) - tiêu  | 47. 到 ( ) - đáo   |
| 33. 決 ( ) - quyết | 48. 交 ( ) - giao  |
| 34. 旅 ( ) - lữ    | 49. 機 ( ) - cơ    |
| 35. 約 ( ) - ước   | 50. 関 ( ) - quan  |
| 36. 案 ( ) - án    | 51. 局 ( ) - cục   |
| 37. 準 ( ) - chuẩn | 52. 信 ( ) - tín   |
| 38. 相 ( ) - tương | 53. 路 ( ) - lộ    |
| 39. 談 ( ) - đàm   | 54. 政 ( ) - chính |
| 40. 連 ( ) - liên  | 55. 注 ( ) - chú   |
| 41. 絡 ( ) - lạc   | 56. 意 ( ) - ý     |
| 42. 泊 ( ) - đặc   | 57. 押 ( ) - áp    |
| 43. 待 ( ) - đãi   | 58. 引 ( ) - dẫn   |
| 44. 急 ( ) - cấp   | 59. 割 ( ) - cắt   |
| 45. 線 ( ) - tuyến | 60. 營 ( ) - doanh |

Basic L. 28-33-③

打, 果, 絡, 約, 落, 格, 發  
願, 談, 関, 案, 殘, 難

đã kích, kết quả  
hiệu quả, liên lạc  
quy ước, hôn ước  
điều ước, bộ lạc  
nhân cách, tính cách  
ác ý, ác mộng  
nguyên vọng, quan hệ  
quan tâm, cơ quan  
thuế quan, tội tày  
đề án, tàn khốc  
tai nạn, phát âm  
phát triển, phát hành  
phát sinh, phát triển  
khai phát, xuất phát

- |            |            |
|------------|------------|
| 11. 災難 ( ) | 12. 人格 ( ) |
| 13. 結果 ( ) | 14. 規約 ( ) |
| 15. 發音 ( ) | 16. 願望 ( ) |
| 17. 惡夢 ( ) | 18. 效果 ( ) |
| 19. 婚約 ( ) | 20. 機關 ( ) |
| 21. 関心 ( ) | 22. 条約 ( ) |

a. ua → ư  
ac, ach → ư  
an, uan, am, yên → ư

- |           |            |
|-----------|------------|
| 1. 連絡 ( ) | 2. 性格 ( )  |
| 3. 関係 ( ) | 4. 提案 ( )  |
| 5. 機關 ( ) | 6. 惡意 ( )  |
| 7. 部落 ( ) | 8. 打擊 ( )  |
| 9. 殘留 ( ) | 10. 會談 ( ) |

- |            |            |
|------------|------------|
| 23. 發展 ( ) | 24. 出發 ( ) |
| 25. 發生 ( ) | 26. 發表 ( ) |
| 27. 開關 ( ) | 28. 發行 ( ) |
- 取, 受, 準, 由, 流  
注, 急, 求

thư thông, thư thái  
chủ ý, yêu cầu  
liên hành, liên thông  
liên ước, giao lưu  
trung lưu, hải lưu  
cấp tốc, khẩn cấp  
lý do, tự do  
duẩn lệ

- |            |            |
|------------|------------|
| 7. 受動 ( )  | 8. 注意 ( )  |
| 9. 海流 ( )  | 10. 自由 ( ) |
| 11. 受胎 ( ) | 12. 緊急 ( ) |
| 13. 流域 ( ) | 14. 流通 ( ) |
| 15. 準備 ( ) |            |

資料7 定着のためのゲームの例

